

## 第14期 環境と経営セミナー

コーディネータ 同志社大学経済学部 教授 郡嶋 孝 氏

戦後社会を環境の視点で見ると、経済成長とともに地域で顕在化した公害問題から、国を越えた世界的な問題として取り組まなければならない環境問題へと変化し、生態系、資源、エネルギーなどに関して国家間の協調や国際的な合意によって解決すべきマクロな問題となってきた一方で、企業の環境責任、企業活動の情報開示のような個々の企業の単位での環境への取り組みが問われるというようなミクロな問題としても捉えられるようになってきています。

環境問題は、また我々生活環境の「質」の問題でもあります。つまり私たちと後の世代が、どのような生活環境の質をもって暮らしていけるのかということです。これまで経済の力で測ってきた尺度を、生活環境の質に捉え返すということが、これからの社会の形成や企業活動においても必要になっています。生活環境の質の向上のために積極的に何が必要かということを考えてみたいものです。

当セミナーは、企業・業界団体の環境部門、経営企画部門、営業企画部門、研究開発部門などで、環境マネジメントやリスクマネジメントを担当されている方、あるいは、環境ビジネスや環境に配慮した商品の開発を担当されている方が直面する課題についての最新情報を適宜提供し、具体的にどのようなスタンスとノウハウをもって臨んでいくべきかを、トータルな環境問題の動向を踏まえつつ研究することを主旨としています。

当セミナーの運営は、コーディネータを務める同志社大学経済学部教授の郡嶋孝氏を中心に、毎回2人の講師が各テーマについて最新の理論と実際についての情報を提供し、参加者との議論を深めるという形で進めてまいります。

またセミナーの終了後には、自由な雰囲気の中で問題の掘り下げを行える有志による懇談の場を提供し、コーディネータ・講演者・参加者の交流を図るのも当セミナーの特徴です。皆様のご参加をお待ち申し上げます。

株式会社インテージ ソーシャルシステム部

## これからのエネルギー

東京ガス(株)技術開発本部 執行役員 渡辺 尚生氏  
慶應義塾大学大学院政策メディア研究科 助教授 金谷 年展氏

2006年  
6月23日(金)  
13:30 ~ 17:00  
(終了後に懇談会を行います)

地球温暖化などエネルギー消費による環境への影響が問題となる中で、我が国のエネルギー供給システムをどのように構築するかが関心となっている。水素エネルギーや燃料電池、バイオマスエネルギーなど、今後の導入が期待されているエネルギーについて、専門家の意見を聞きながら、実用化の可能性を考察する。

## 消費者の環境意識とマーケティング

消費生活アドバイザー・環境カウンセラー 大和田 順子氏  
(株)インテージ ソーシャルシステム部

2006年  
7月28日(金)  
13:30 ~ 17:00

環境問題を解決していくためには、言うまでもなく消費者の環境意識の向上が必要である。最近では、LOHAS(Lifestyles of Health and Sustainability)という言葉が生まれ、健康と地球環境に配慮したライフスタイルを積極的に追求していく動きもある。LOHASに関する世界的な動向や弊社が実施している社会的な価値観に関する消費者調査の結果などを紹介しながら、消費者の環境意識の動向について考察する。

## 環境マネジメントシステムの動向

(株)日本総合研究所 創発戦略センター  
上席主任研究員 足達 英一郎氏  
(財)地球環境戦略研究機関持続性センター エコアクション21事務局  
事務局長 竹内 恒夫氏

2006年  
8月25日(金)  
13:30 ~ 17:00

ISO14001の取得も当たり前になってきたが、取得すれば良いというわけではない。CSRのISO化の動きなどを交えながら企業の社会的責任のあり方について論じる。また、中小企業向けに創設されたエコアクション21の動向なども併せて紹介し、これからの環境マネジメントシステムの方向性について検討する。

## 都市と環境

日本工業大学建築学科教授 成田 健一氏  
国土交通省

2006年  
9月29日(金)  
13:30 ~ 17:00

ヒートアイランド、地球温暖化、廃棄物問題、水不足など都市に関して様々な環境問題が発生している。こうした問題に対して、屋上緑化、保水性舗装、散水、省エネ技術等、様々な解決方法や解決を促進するための施策が提案されている。都市に関する環境問題の現状と解決の方法について検討する。

## 食品のリサイクル

【現地踏査】バイオエナジー  
味の素 川崎工場(予定)

2006年  
10月13日(金)  
(交通費等は別途負担)

各種リサイクル法の成立によって、鉄、非鉄金属等のリサイクルは大幅に促進されてきた。今後は、生ごみや汚泥などのリサイクルをエネルギーの利用も含めてどのように取り組んでいく方が大きな課題となってきた。食品廃棄物をメタン発酵させ、メタンガスから燃料電池とガスエンジンにより電気と熱を生み出すシステムや排水汚泥の処理システムなどの施設を見学する。

## 家電リサイクルと欧州の電子機器への規制の動向

日本電子(株) 技術法規顧問  
(財)家電製品協会 環境担当部長

松浦 徹也氏  
森田 和敬氏

2006年  
11月17日(金)  
13:30 ~ 17:00

2001年4月に施行された家電リサイクル法も施行されて5年が経過し、今年は改正の論議がわき上がってくる事が予想される。また、EUにおいては、RoHS指令(電気電子機器に含まれる特定有害物質の使用制限指令)により、本年7月より、特定の禁止物質を含んだ電気電子機器については、EU地域で販売ができなくなることが決まっている。こうした現状と今後の見通しについて検討する。

## CSRの現状と今後の方向性

日本IBM(株)環境経営室長  
NPO法人ジュース(JWS)理事長

岡本 享二氏  
小笠原 悦子氏

2006年  
12月22日(金)  
13:30 ~ 17:00

CSR(Corporate Social Responsibility)という言葉は一般的な用語となった。しかし、企業はどこまで、または、どのようなCSRに取り組むべきかという点については、様々な意見がある。CSRの現状や本質、今後の方向性などについて、CSRの取り組み事例などを交えながら考察する。

## ものづくりと環境

東京大学経済学研究科教授  
製造メーカー 商品開発担当

藤本 隆宏氏

2007年  
1月26日(金)  
13:30 ~ 17:00

環境に配慮した商品づくりが盛んに進められている。環境に限らずこうした製品の開発に当たっては、しっかりとしたものづくりのシステムがあることが必要である。我が国のものづくりのシステムやものづくりの哲学や、いくつかの具体的な事例を取り上げながら、環境に配慮した製品づくりの方法について考察する。

## 欧州の環境動向

ナチュラル・ステップ・ジャパン理事長  
在日ドイツ商工会議所 会員サービス部長

高見 幸子氏  
林 哲裕氏

2007年  
2月23日(金)  
13:30 ~ 17:00

これまで我が国は、ドイツや北欧などを環境先進国として見習いながら、製造者責任の考え方や資源循環の方法などを推進してきた。しかし、ごみの発生など、それぞれの国の文化の違いもあり、必ずしもすべてを模倣すればよいわけではない。今後、我が国が環境対応を進めていく上で、こうした国々からあらためて何を学ぶべきかについて客観的に考察する。

## 2006年度のまとめ

国連大学 副学長  
同志社大学経済学部教授

安井 至氏  
郡 孝氏

2007年  
3月23日(金)  
13:30 ~ 17:00  
(終了後に懇談会を行います)

地球環境問題を解決するためには、行政、企業、市民がそれぞれの役割を果たしていくことが必要である。一年間のセミナーの締めくくりとして、2006年度を振り返りながら、中長期的に見た企業の環境対応のあり方や環境ビジネスの可能性について、安井至氏と郡孝氏に語っていただく。

## 第14期 環境と経営セミナー

期 間 : 2006年6月 ~ 2007年3月

コーディネータ : 同志社大学経済学部 教授 郡 篤 孝 氏 (環境経済学)

対 象 : 企業や業界団体で環境問題(事業)に取り組む責任者の方々

費 用 : 1社1名につき262,500円(消費税込み)

会 場 : (株)インテージ 本社2階 セミナールーム

〒101-8201 東京都千代田区神田練堀町3番地 インテージ秋葉原ビル

TEL: 03-5294-8305 FAX: 03-5294-8309

最寄駅: JR秋葉原駅(中央改札口より徒歩約3分)



〒101-8201 東京都千代田区神田練堀町3番地 インテージ秋葉原ビル

TEL: 03-5294-8305 FAX: 03-5294-8309 E-mail: icfs@intage.co.jp

株式会社インテージ ソーシャルシステム部

担当: 西 哲生、甲斐 聡、小山 典子